



# 浸透する風景。



松江市鹿島町、連日大勢の見学者が訪れる島根原子力館のすぐ下方に位置する深田運動公園。野球場にテニスコート、スポーツ広場、児童公園……。地域の皆さまのスポーツ拠点として親しんでいただいている。この公園施設も、開設した当時は周囲の景色から少しだけ目立つ存在だったかもしれません。しかし、オープンから二十数年を経たいま、深田運動公園はすっかり周囲の風景に溶け込んでいます。中国電力は、地域に根ざした企業としてお役に立てるような活動を、これからも続けていきたいと考えています。



## しまねの風景

いつものまにか、地域の一部となって定着する対象がある。いつからあるのかなどは誰も問わない。ずっとそこにある風景なのだ。

お問い合わせ 中国電力(株)島根原子力本部 地域共生部 〒690-8514 松江市母衣町115(島根支社内) TEL(0852)32-0619 受付時間/月曜日~金曜日9:00~17:00(祝日を除く) <http://www.energja.co.jp/>

## 安全確保の意識を徹底し 地域の期待に応える

明日へ継承

# 安全の 礎

③



取替を前に新しい主蒸気減し弁(安全弁)を確認する澤田さん

松江市鹿島町にある中国電力島根原子力発電所。通常時、中電社員と協力会社の社員を含め1000人前後が働く大所帯だ。今は3号機の建設に伴い、出入りする人は3000人前後に達している。同発電所保修部に勤務する澤田陽介さん(33)は、原子炉周りの設備の保守管理業務を担当。安定した電力供給確保とCO2削減のため、最前線で原子力安全に心血を注ぐ。

澤田さんは、13カ月ごとに行われる1、2号機の定期検査で、担当設備の点検内容を把握し、協力が会社が行う点検作業を立会して重要な箇所の確認を行っている。確認結果に基づき点検内容の見直しや、部品交換等の必要な予防保全の計画なども行う。発電所が通常運転している時はデスクワークが中心。向こう3年間の詳細な保修計画や向こう10年間の大型予防保全工事計画の策定などの業務を行っている。

島根原子力発電所は、運転開始以来、大きなトラブルもなく全国でもトップクラスの稼働率を誇ってきた。その島根で昨年春、点検不備問題が判明。澤田さんも現場を担当する部署の一員として対応を行った。「設備の健全性が確保されれば、管理プロセスをシンプルにすることで確実な保守管理を実施し、点検実績を確実に記録に残せる仕組みを目指す」。



職場の仲間と点検計画を協議する澤田さん(右)

点検計画表どおりの点検をこなすよりもよという意識があり、前例踏襲的に、これまでどおりの点検を継続していけばよいと考えていた。そうした現場の判断が今回の問題を招いたと思ふと表情を引き締めた。

澤田さんは、中電が自ら定めた各設備の点検内容の詳細を管理する「点検計画表」を、より適切に管理できるものに見直すために発足したワーキングのメンバーに加わり、各設備担当者の声を反映させながら業務改善や新ルールづくりに携わっている。「現在行っている点検を簡素化するのはない」。

点検不備問題の再発防止対策の取り組み状況を地域の皆さまへお知らせするために「お客さま訪問」を実施。澤田さんも市内の住宅約40戸を訪問した。「信じていたのに」。地域の皆さまの声を聞くたびに、保守管理という原子力安全の根幹にかかわる自分たちの仕事の重要性を改めて思い知らされた。一方で「(信頼を取り戻すよう)これから頑張る」と励ましもあった。こうした声も澤田さんの心にしつかりと残った。「皆さまの期待を二度と裏切らないよう取り組み」と誓う。

澤田さんは、中電が自ら定めた各設備の点検内容の詳細を管理する「点検計画表」を、より適切に管理できるものに見直すために発足したワーキングのメンバーに加わり、各設備担当者の声を反映させながら業務改善や新ルールづくりに携わっている。「現在行っている点検を簡素化するのはない」。

中国地方一円に電力を供給する中国電力島根原子力発電所。地域の理解を得るためには、今まで以上に安全性を最優先させ安定的に稼働させることが求められる。「明日へ継承 安全の礎」は、地域に根ざした信頼される企業として同社の企業文化をシリーズで紹介する。



中国電力 島根原子力発電所 保修部(機械保修担当) 澤田 陽介 さん(33)